

令和5年産 美里地区の大豆情報



第3号 令和5年7月28日

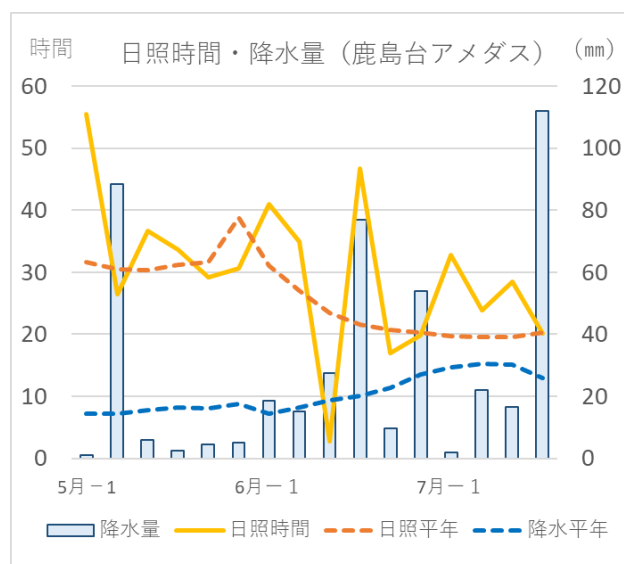
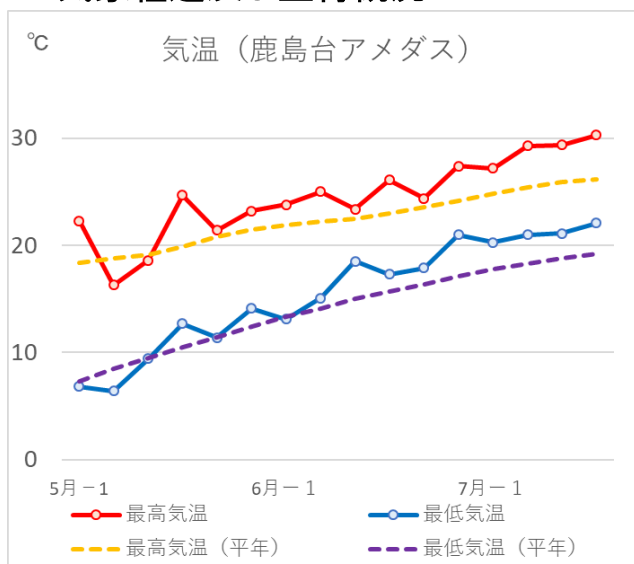
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育概況



- 5月始めに低温があったほかは、期間を通じて高温傾向で推移しています。
- 日照時間は6月第3半旬に少照でしたが、全体としては平年を1割程度上回っています。
- 降水量は6月中旬・下旬、7月中旬と30~80mm/日以上のまとまった降雨がありました。

生育調査結果 (調査日: 7月25日)

品種	調査地点	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
タチナガハ	涌谷町岸ヶ森	6月19日	30.7	8.6	0.0
	大崎市田尻大沢	5月31日	50.0	12.7	1.5
	大崎市鹿島台木間塚	5月31日	49.2	11.8	1.1
タンレイ	(参考: 作況試験ほ調査結果) ※	5月25日	94.0	17.0	2.9
ミヤギシロメ	涌谷町岸ヶ森	6月21日	32.4	7.3	0.6
	美里町青生	6月7日	57.2	12.3	2.0
	(参考: 作況試験ほ調査結果) ※	6月15日	58.0	11.6	2.1

※古川農業試験場が実施している令和5年度大豆作況試験生育状況の調査結果

- 5月下旬~6月上旬に播種されたタチナガハのほ場では開花が始まっています。
- ミヤギシロメについては作況ほど比較して主茎長と分枝数は同程度、主茎節数は多めとなっています。8月上旬には開花期を迎えるものと思われます。
- 一部のほ場ではオオタバコガやツメクサガなどによる葉の食害が確認されています。

(1) 湿害対策 早急に排水対策を実施して、生育量を確保しましょう

- ・まとまった降雨がたびたび観測されています。中耕培土、除草などの作業が一日でも早く実施できるよう、ほ場の排水機能を確認・改善して、ほ場表面や明きよの停滞水を無くしましょう。
- ・湿害により葉色が著しく薄い場合や生育不良が顕著な場合には、速効性肥料（窒素成分で2～3kg/10a程度）を施用して生育回復を図りましょう。

(2) 中耕・培土 大豆の開花10日前に作業を実施しましょう

- ・中耕培土により不定根の発生による生育促進、増収、倒伏防止、土壌通気性・排水性の改善、除草等の効果があります。
- ・遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷、断根により生育に支障を来すため、開花の10日前までには終わるようにしましょう。

→雨の日が多くて一度も中耕培土ができていない場合は、開花が近づいても培土の実施を検討しましょう。

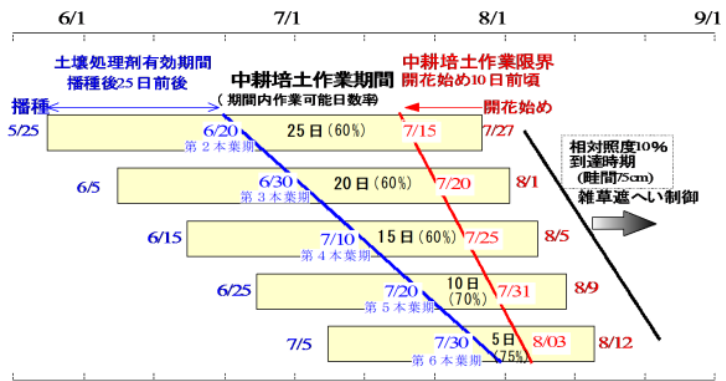


図 中耕培土作業可能期間設定のめやす

(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

(3) 追肥 開花期から幼莢期の窒素養分吸収を補いましょう

- ・乾物生産が旺盛となる開花期から幼莢期の窒素供給は増収効果があります。
- ・ほ場の地力により追肥の効果が低い場合があるので、ほ場条件を考慮の上、実施する場合は根粒菌の活動を抑制しにくい被覆肥料（40日タイプ、窒素成分で5kg/10a）を使った最終培土期（晩播栽培は8月上旬（本葉5～6葉期））に行いましょう。

(4) 雑草防除 雑草対策の第一は大豆の生育を良好にすることです

- ・本年は播種時期が遅いほ場では、畦間にタデ類やアサガオ類、クサネムなどの発生が見られます。発生している草種を確認し、効果の高い除草剤を選択しましょう。
- ・「排水の手直し」、「中耕」、「培土」、「茎葉処理除草剤」、「畦間・株間の機械・薬剤除草」、「周辺部の機械・薬剤除草」など、大豆の生育を良好にするため、何が実施可能か検討しましょう。

茎葉処理剤の処理時期・効果の目安（詳細は、宮城県「普及に移す技術」第94号を参照）

	アタックショット乳剤	大豆バサグラン液剤	パワーガイザー液剤
シロザ	4葉・5cmまで	2葉・3cmまで（中）	◎
ホソアオゲイトウ	6葉・10cmまで	3葉・3cmまで（中）	◎
イヌホオズキ	10cmまで	6葉・5cmまで（中）	◎
オオイヌタデ	2葉・3cmまで	15cmまで（高）	◎（イヌタデ）
アメリカセンダングサ	—	20cmまで（高）	◎～○
オオオナモミ	4葉・10cmまで	6葉・15cmまで（中～高）	◎～○（オナモミ）
アレチウリ	5葉・つる化前まで	5葉・つる化前まで（中）	○～△
マメアサガオ	4葉・つる化始まで	3葉・つる化前まで（中）	◎～○
アメリカアサガオ	2葉まで	2葉まで（低）	◎～○
イチビ	6葉・15cmまで	6葉・15cmまで（高）	◎～○
クサネム	1葉・2cmまで	—	△
ツユクサ	—	—	△～×

注1) 大豆バサグラン液剤欄の（ ）は、低日照時の除草効果の安定性を示す。

注2) パワーガイザー液剤の詳細は、BASFジャパン(株)「パワーガイザー液剤技術資料」を参照。

(5) 病害虫対策 発生病害虫に合わせて、効果的に防除しましょう

- 大豆の病害虫防除は、連作ほ場か、輪作ほ場か、葉や子実のこれまでの被害発生状況はどうだったか、防除体系はどうだったか、といった大きな意味合いでの「ほ場条件」で病害虫の発生自体が大きく変わってくるため、効果的で効率的な防除を行うためには、どの病害虫を対象とすべきか整理しておく必要があります。

【主な病害虫】

● ツメクサガ・オオタバコガ

突発的に多発し葉や莢を食害します。発生密度は開花始期ごろにピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高くなる傾向にあります(図参照)。発生種を確認の上、幼虫の葉齢が進むと薬剤の効果が低下するため、散布時期を逸しないように作業を行いましょう。

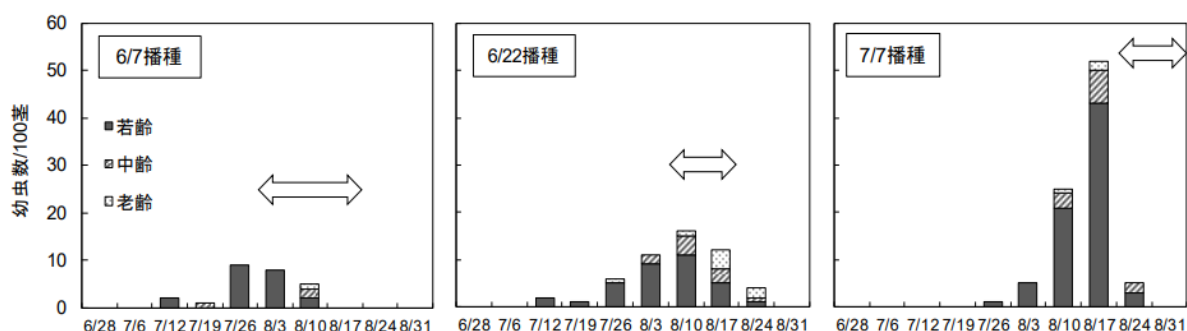


図 播種時期が異なるダイズにおけるタバコガ類幼虫の発生消長(品種: ミヤギシロメ)

(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

● マメシクイガ

連作ほ場で多発します。幼虫が子実の縫合線に沿って食害します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。日長に反応して休眠覚醒するため発生時期の年次変動は少ない傾向があります。

● フタスジヒメハムシ

連作ほ場で多くなります。子実に黒色の斑点が生じるほか、大豆の生育期間中に葉を食害(円孔状)します。若莢の表面を舐め取るような食害痕が特徴で、莢の食害部分から雑菌が侵入して被害粒が生じます。

● ダイズシストセンチュウ

播種2か月後頃に根に寄生しているのを確認(白～淡黄色で約0.6mmのレモン型の雌成虫)できます。寄生されると、葉が黄化して茎葉が生育不良となり、線虫の密度が高まるほど症状も著しくなります。作業機械や長靴などに付着してほ場間を移動するので、発生ほ場を確認した場合は注意が必要です。土壌処理剤で短期的に根絶するのは難しく、抵抗性品種や緑肥作物、田畑輪換など複合的な対策が必要となります。

● 紫斑病

タンレイでは特に注意が必要です。成熟期の平均気温が $18\pm 3^{\circ}\text{C}$ で、降雨が多いと発生が多くなります。開花期後20～40日に1～2回防除(同一剤を使用しない)しましょう。

農作業中の熱中症に注意しましょう！

<熱中症の予防法>

- 暑さをしのぐ服装(帽子の着用、通気性の良い衣類の着用)
- 水分補給(こまめな水分補給及び休憩、気温の高い時間を避けた作業)
- 熱中症になりにくい室内環境(ハウスや畜舎の換気、遮光や断熱材施工による温度上昇防止)

農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)

- 周辺環境や近隣住民の方々に配慮しましょう
- 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- 土壌くん蒸剤の取り扱いに注意しましょう
- 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう